

令和5年12月20日

豊田市長 太田 稔彦 様

益富地域会議  
会長 山田 武志

## 答 申 書

地方自治法（昭和22年法律第67号）第202条の7第2項の規定に基づき諮問を受けたことについて、下記のとおり答申します。

### 記

#### 1 諮問内容に対する当地域会議の意見

「(仮称) ミライ構想」のめざす姿やまちづくりの基本的な考え方、都市構造の実現を期待して、意見をとりまとめましたので、計画策定に反映されるようお願いいたします。

なお、計画を進めるに当たっては、デジタル化の推進や環境問題等のSDGs（持続可能な開発目標）に関する様々な取組を前面に出し、「ダントツの豊田市」が見えることを期待します。

##### (1) 「つながり」について

「つながり」を重視し、まとめられていることは評価しますが、「つながり」には人や地域への信頼感が重要であり、「信頼感を生み出す」ことについての内容が加わるとよいと考えます。

また、「つながり」に関する取組において、「官」と「民」の連携など、多様な連携を継続することを希望します。

##### (2) めざすまちの姿について

子どもたちや子育て世代にとって住みやすく、住みたいと思うまちを目指してまちづくりを進めることで、まちの活性化が図られ、高齢者も安心して暮らせるまちの実現につながると考えます。

##### (3) 「多様な主体が楽しむまちづくり」について

「多様な主体が楽しむまちづくり」における「主体」が誰を指すのかが分かりづらいと考えます。具体的な施策を進めるには「どういった主体が共働で楽しめるようにするのか」を分かりやすく示し、共通認識を持つておく必要があると考えます。

#### (4) 都市構造について

車上狙い、窃盗、詐欺等の事件も多発しているため、「都市構造の実現に向けた方針」に「防犯」を加えるとよいと考えます。

また、従来の車社会を前提としたまちづくりでなく、地域でコンパクトに生活できるまちづくりを進めたり、ITや自動車産業以外の産業等を産官学の連携等により検討したりすることが必要だと考えます。

なお、「都市構造」中の「(仮) えきちか居住誘導エリア」については、「えきちか」とひらがなを使うと「駅近」と「駅地下」のどちらか分かりにくいいため、漢字を併記するなど分かりやすい表記とするようお願いします。

#### (5) 全体を通して

「カタカナ言葉」や「アルファベットの略語」が使用されているため、理解しづらくなっていると考えます。できる限り市民の馴染みのある言葉を使って平易な表現としていただくとともに、市民に総合計画を知ってもらえるよう、周知活動を工夫して実施することを期待します。

## 2 「(仮称) ミライ戦略2030」についての意見(参考)

構想に基づき推進する戦略を示す「(仮称) ミライ戦略2030」に期待する施策についての意見を次に記しますので、参考にしてください。

また、事業の進捗を評価する際には、あいまいな基準ではなく、数値で絶対的な基準を設定すべきだと考えます。

### (1) 各種交通問題解消

- ・路上駐車解消に関する事(アクセス道路整備、市営駐車場増強等)
- ・景観や道路維持に関する事(電柱の地中化、街路樹の剪定等)
- ・渋滞回避に関する事(バイパス整備等)
- ・移動手段の確保に関する事(公共交通機関の充実等)

### (2) 高齢化社会対策

- ・ひとり暮らし世帯に関する事(緊急通報システム導入等)
- ・多死社会への対応に関する事(公営霊園の提供等)
- ・介護士の育成に関する事(廃校等を利用した介護士の育成等)
- ・多世代の健康づくりに関する事(体育施設等の増強等)

### (3) 地域活性化

- ・市街地活性化に関する事(世界大会の開催、市民参加イベントの開催等)

### (4) 安全なまちづくり

- ・犯罪の抑止に関する事(防犯カメラの増設等)
- ・獣害対策に関する事(市職員の狩猟免許取得等)
- ・交通安全に関する事(道路交通環境の整備等)

※諮問に対する各委員からの意見を、別紙として添付します。

## 諮問に対する各委員からの意見

### 伊東委員

- ・ミライ構想の方向性について、「めざす姿」の「継承」の内容と「深化」がうまくマッチしていないのではないかと。
- ・「深化」の内容にチェンジ、チャレンジを繰り返し、しなやかに変化し続け、成長するまち、とあるが、少子化や高齢化が進むの中で、どのようにして成長するのかが判らない。
- ・「つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた」の具体的な視点が見えない。
- ・「都市構想」の基本的視点の、多様な主体との連携の説明で「市域全体での暮らし機能の連携」とあるが、連携が具体的にイメージしがたく疑問に思う。

### 梅木委員

- ・今回示された資料では、キーワードが乱立していて、何を伝えたいのか伝わらない。
- ・計画の最終目標を2040年としているが、どこを目指しているのか見えない。
- ・課題をとらえて「継承」で「つながり」を重視して取り組むのであれば、「深化」の内容に「豊田市の取り巻く環境」に対応した記述が必要ではないか。

### 木戸委員

- ・説明のあった資料を見ると、「人のつながり」を大切にするんだというのが一番のテーマとして見えいいと思う。
- ・地球環境を考えると、カーボンニュートラル抜きにしては語れないし、もう一つ大きなテーマである、少子高齢化に向けた施策が合致していいと思う。
- ・第8次総合計画の評価基準は曖昧なので、絶対的な評価基準を設けて、定性的な要件は必ず数字で設定すべきである。評価においても取組結果のチェックをしっかり行い、事業等が順調に進まないものは、何が問題で進まないかをハッキリさせるべきと考える。
- ・「都市構造」のつながることは、いいことだと思うが、視点が違うのではないかと。四郷の例を見ると、これまでの車社会を前提とした、大規模店舗法のパターンの従来型であり、地域でコンパクトに生活できるもの考えるべきではないか。
- ・インターチェンジ近くで産業拠点を集積しているが、今後の産業構造転換は、IT や車以外の産業等、産官学の連携等で検討し進めるべきである。
- ・総合計画の中で、福祉、高齢化、山村関係では救急医療など生活していく上で、本当に困ることや重要なものが沢山あるのでそれらを網羅するべきである。

### 小寺委員

- ・「ミライ構想の方向性（素案）」は「つながり」をキーワードとして、理論的にまとめられており、全般的には良い案だと思う。
- ・そもそも「つながり」とは「人や地域への信頼感があるかどうか」が根本にあり、この「信頼感を生み出す」旨の内容が加わると良い。また、「人とのつながり」において、豊田市の特徴として「海外や他府県からの転入者が多い」ことがあり、更に、スポーツ・文化行事、イベント開催は、市民としてのつながり・絆を結ぶ重要なものである。

- ・「主体・主体的」は、抽象的で分かりづらいので「主体的」の本来の意味である「自分の考えや判断によって行動する」という言葉が補足すると理解しやすいのではないか。
- ・「都市構想」の中で多く出てくる「拠点」の意味も解かりにくいので、具体的に「産業技術拠点」「都市拠点」「生活拠点」と記述するのが良い。
- ・「えきちか居住誘導エリア」は「駅に近い」の意味であれば、漢字・カナ併記（「駅近（えきちか）」）の方が解かりやすい。
- ・「防災」の記述はあるが、車上狙いや窃盗など、「防犯」の記述も加わると良い。
- ・豊田市の玄関口として、豊田市駅前や豊田 IC などの整備は重要であり、クルマの街として恥ずかしくないアクセス道路の整備、サッカー観戦など車利用者による路上駐車等が問題であり、不足する「市営駐車場」の増強が必要である。
- ・「高齢者対策」として「健康づくり」の一環で、楽しく体を動かせる施設（体育館、テニスコートなど）の増強が必要である。

### 今野委員

- ・都市はきれいな景観とすることが良く、電柱の地中化や建築でいくと建物の高さを揃えると街並みがきれいになる。また、外環状線などの道路の路側や中央分離帯の樹木の剪定や草刈りをするなど良好な維持管理を望む。
- ・毎年多くの方が、交通事故で犠牲となっているので、交通安全に関する取組の強化を望む。

### 白井委員

- ・ホームページを調べると、豊田市は結構「いい線」っており、SDGs の活動にしてもトップレベルというところもあり、第 8 次総合計画も色々手を広げきって作られており、総花的に本当に学者さんが書く程の計画で落ちがない。ただ、この計画書を多くの市民が知らないことは問題である。
- ・計画の展開において、本当にデジタル化と SDGs のこの 2 本をもっともっと前面に出して、各部署がどう展開していくかが重要であり、取り組み次第で全国トップレベルではなく、ダントツの豊田市が目に見えることを期待する。

### 竹下委員

- ・第 8 次総合計画を読んだが、ある意味、総花的に網羅されている。
- ・過去から脈々と受け継がれてきた、豊田市の文化・産業・風土・インフラ設備などを 2040 年に予測される環境に合わせて、残していくもの、変化させていくもの、種まきするもの、育てるもの、これらを柔軟に戦略を持って計画してほしい。
- ・重点施策として「子育て世代が住みやすい（住みたくなる）まちへ」を一番にしたい。人口動態によると、子育て世代の転出が転入を超えていることは大問題。子育て世代が多く集まるまちこそ、高齢者が安心して暮らせるまちだと考える。決して、若い世代が高齢者を支えるのを期待しているのでは無く、高齢者が子育て世代を支える仕組みづくりを目指す。高齢者パワーで若い人が暮らしやすく、若い人のパワー、子どもたちのパワーが高齢者の活力になると良い。

- ・本市は、世界をリードする「ものづくり産業」はあるものの商業、文化芸術、スポーツ面は劣る。これらの分野でもダントツ 1 位を目指し、これが豊田市だとしたい。
- ・高齢者が最も困っているのは、日常の交通手段で、免許証を返納しマイカーを手放したら、公共交通機関が脆弱で、銀行、病院、商業施設への移動などで非常に不便である。

### 田中委員

- ・第 8 次の総合計画を見て難しいが、すべてのことは理解できないが、すごくいいことが書いてある。
- ・益富地域を基本に考えると、次世代を担う子どもたちが、この地域がいい故郷（ふるさと）だと思い、ここに住みたい、子どもたちが戻ってきてくれるまちを作ってほしい。

### 星田委員

- ・資料を見て、まちづくりの具体的な姿というのが、見えにくくて、それらしい文言が並んでいて難しい。
- ・市の施策ですごいと思ったことがあった。学校の体育授業の水泳を民間のスイミングスクールに委託していることを聞いた時にすごいなと思った。学校のプールが老朽化や、修繕など色々検討した結果、スイミングスクールと連携することで一気に解決。まさしく「つながる」だと思い、「民」と「官」がつながり、あるものを生かせばいいと思った。足し算にかけ算を組み合わせ、発想の転換で主体は学校だけど、官と民が連携した事例だと思う。
- ・人権擁護委員の活動で、福祉に関して他の市町から見ると、豊田市に住んでいる人には分からないが、豊田市の福祉はすごいんだよとよく言われる。
- ・作成資料の中に「カタカナ」の表記があるが、目にした時に判りにくく、一般の人が分かるような表現にしてほしい。

### 政池委員

- ・生活拠点内で、自家用車が無くても生活できるように、集える場所とつなぐ移動手段を充実してほしい。
- ・これまでの高齢化社会までの視点だけでなく、次に起こる「高死社会」の視点を入れて欲しい。今後、死亡する人が増えることが予測され、霊園、墓じまい、散骨、自然葬、墓を継がせたくない、合祀も考えるなど、これまでに無い形態が出てくると思うので、公営の霊園や墓の多様な形態の提供を考えてほしい。
- ・第 8 次総合計画で進めてきた在宅療養の仕組やサービス内容など、どのような使い方があるのかの情報提供を市民にうまく伝えてほしい。

### 間瀬委員

- ・各地域ごとの人とつながりを大切に、あいさつ活動を継続することで、防災対策にもつながると思う。
- ・市街地の活性化としてイベント開催を増やすことで、市内だけでなく市外からも人が集まることで、地域の活性化や定住人口の増加にもつながると思う。

- ・今年開催するラリーJAPAN やスポーツ（トライアスロン等世界大会があるもの）の開催や市民の大会を増やしてほしい。
- ・公共交通機関を充実させて、気軽に誰でもどこにでも行ける環境づくりにしてほしい。  
（市街地の駐車場の料金が安く、バス料金に近い金額（全体の平均額）にすれば、公共交通機関の利用が増え、豊田市の活性化につながるのではないかと）
- ・国道 153 号から国道 301 号にかけての道路を、市街地を通らずに行けるバイパスを整備すれば、国道 248 号や内環状線の渋滞が回避できるのではないかと。

### 山内委員

- ・資料を見ても内容がよく判りませんでした。
- ・豊田市で一番残念に思うことは、トヨタ自動車で働く人が、家は豊田市外に家を建てしまい税金が入ってこない、買い物や遊びの場も豊田市外でお金を使うのも豊田市外であり、これは寂しいことだと思うし、何とかしてほしい。これは、豊田市に魅力が無いんじゃないかとも思える。
- ・環境づくりは大切だと思う。環境が良くなれば、豊田市に住みたい、市外に出たくなくなるのではないかと。
- ・街づくりは、色々なところでやっていて商業施設を作ったりしている。駅前が中途半端な感じで、お金を掛けないといけない所に掛けてない。代表的なもの、本当に必要なところにはお金を掛けてほしい。
- ・今あるものをどうするかで、例えば廃校等をうまく使って、不足する介護士の全寮制の介護学校を作ってはどうか。介護不足も解消できるのではないかと思う。

### 山川委員

- ・資料に書いてあることは難しいと思う。たぶん、アバウトな書き方になっているのが理由である。
- ・「つながり」も、色々なつながりがあり、正直、何をするのか分からない。
- ・これからのことを考えると、「安全」しかないと思う。警察からのメール配信を見ていると、毎日のように送信されてくる。だから、現状は「安全」ではない。次代を担う子どもたちを守るために、安全なまちづくりを積極的に進めてほしい。犯罪の抑止等に効果的な防犯カメラを増やせばいいと思う。カメラを増やすことでプライバシーを侵害するとの意見もあるが、安全なまちづくりに向けて特化してやってほしい。

### 山田（秀）委員

- ・人生 100 年時代となって、高齢者になって車も運転できなくなってからの交通手段を考えてほしい。
- ・高齢者の一人暮らし世帯を対象に、緊急呼び出しシステムを構築し、体調不良になった時にボタンを押せば、包括支援センターに連絡が入り対応できるようにしたり、民間の警備会社が運用している緊急通報システムを市が無料で設置できるとよい。

- ・住宅地にイノシシやシカが昼間でも出てくるようになり、市職員が、狩猟免許を取得して、猟友会が対応できない時でも対応できるように取り組んでほしい。猟友会に頼っている状態で、狩猟免許所持者も少なくなっており、仕事を持ちながらの駆除で大変な状況で対応して頂いている状況。猟友会と一緒にあって害獣対策に取り組んで頂きたい。

### **黒田副会長**

- ・この資料だけでの説明で、答申を作成することが、そもそも無理だと思う。
- ・この中に出てくる、「地域の資源」とは何なのかが判りにくい。
- ・説明の資料の中に出てくる「主体」という言葉は、すごく抽象的で個々のイメージが湧いてこない。「あらゆる主体が変化を積極的に・前向きに受容し」とあるが、あらゆる主体は何か、これは行政がやるのか、自治区やコミュニティがやるのか。あらゆる「主体」というとらえ方だけでは主体が何か全く分からない。
- ・高齢化が進み、後期高齢者が増加する中で、「多様な主体が楽しむまちづくり」をしようとしているが、理想を掲げるのはいいことであるが、いったい本当に誰が主体となってやるのかという視点が、計画の中に抜けている。今後の、高齢化社会をにらんで、どういった「主体」が、どう手当てしていくのかが無いと具体的な施策に入っていくとやっていけなくなる。
- ・まちづくりの基本的な考え方の中に「行政がリードするまちづくり」から「多様な主体が楽しむまちづくり」へ、とあるが、今まで行政がまちづくりをしてきたことを、「多様な主体が楽しむまちづくり」へと、言葉の響きがいいが「多様な主体」とは誰なのか非常に分かりづらい。それと「楽しむ」だけではだめで、「つながる」と言っていて「主体」が「共働」して楽しむのであれば工夫し、基本的な考え方を作っていかなければいけない。

### **山田（武）会長**

- ・方向性としては、基本的には「住みたいまちにしたい」それだけである。
- ・総合計画をまとめて、市民の皆さんに向けて資料を示す際に、普段、私たちが使っている言葉で作って、私たちが話している言葉で説明して、悩まずに腑に落ちるようなものにしてほしい。